

Lifetime Achievement Award の紹介

山 崎 耕 宇

東京農業大学教授

第 17 期日本学術会議第 6 部会員

本アカデミー会員である三橋 淳博士（日本学術会議第 16, 17 期会員、東京農業大学教授、前東京農工大学教授）は、去る平成 12 年 6 月中旬アメリカ・サンディエゴで開催された第 3 回インビトロ生物学世界会議（3rd World Congress on In Vitro Biology）において生涯研究賞ともいうべき“Lifetime Achievement Award”を受賞されました。授賞理由は「無脊椎動物組織培養の揺籃期における研究発展に対する寄与ならびに細胞系作出、培地開発への貢献」で、昆虫組織培養研究において我が国はもとより、世界の当該領域をリードしてきた同博士の業績が高く評価されたものです。ここにお知らせし、同博士のご業績を称えるとともに心からのお慶びを申し上げます。

Lifetime Achievement Award を受賞して

三 橋 淳

東京農業大学教授

第 17 期日本学術会議第 6 部会員

本年 6 月 10 日から 16 日にかけて米国 San Diego 市で開催された第 3 回インビトロ生物学世界会議に於て、私は Lifetime Achievement Award（生涯研究賞）を受賞する栄誉を与えられました。この国際会議は、元は細胞および組織培養世界会議と呼ばれていましたが、対象分野を拡大してインビトロ生物学と改称したものです。従って主体は今でも培養関連の研究です。私は永年昆虫の細胞培養に関する研究を続けてきまして、現在でも未だ毎日顕微鏡で培養細胞を見、自分で培地を作り、自分で培養すると云う仕事を行っています。

昆虫を初め無脊椎動物の細胞は培養するのが大変難しく、私がこの研究を始めた 1962 年に世界で最初の昆虫細胞系が作られました。これは哺乳動物細胞培養より 22 年遅れでした。当時は未だ昆虫の細胞培養法も確立しておらず、培地も有効なもの

が殆どなく、昆虫の細胞を培養するには試行錯誤を重ねる他ありませんでした。そのような時期から一貫して昆虫細胞の培養法と培地の開発を行い、その結果を公表し、また作出した細胞系を用いて昆虫の培養細胞の特性などを明らかにしてきました。

今回の受賞はそのような努力と、僅かながらこの分野の発展に貢献できた事が評価されたものと、大変嬉しく思っております。また、昆虫細胞培養の研究を永年に亘り続けてこられたのは、多くの方々の御支援によるものと感謝しております。

なお、この会議に於て東北大学名誉教授の駒嶺穆博士が植物細胞培養の研究で、また、米国の農務省研究所を退職された J. L. Vaughn 博士が私と同じく昆虫細胞培養の研究で、同じ賞を受けられた事を附記します。